

国語科 中学校第1学年カリキュラム

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
4	風の五線譜 ◎詩の意味を捉え、読み方を工夫して音読する。	C (1) -ア C (2) -ア	1		・自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をする。	○小学校では歌の朗読には取り組んでいる。本学年では詩歌の中の語句の意味について理解し、それを生かして朗読するよう指導を行う。	・詩に込められた心情を捉え、読み方を工夫して音読する。	
	話し方はどうかな ◎話し方について知り、声に出して文章を読む。	C (1) -ア C (2) -ア	2		・目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。	○本学年で文章中の語句の意味をとらえ、中2ではさらに語彙の幅を広げていく。	・詩に込められた心情を捉え、読み方を工夫して音読する。	
	詩の心——発見の喜び ◎言葉の意味を的確に捉え、詩を音読して読み味わう。 ◎詩を鑑賞し、自分のものの見方を広げる。	C (1) -ア C (1) -オ C (2) -ア	2		・本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり、深めたりする。	○小学校5・6年生の段階で、伝記などを読み自分の生き方などについて考える学習に取り組んでいる。本学年では、文章を通して作者のものの見方に触れ、より広い考え方を見につけるよう指導する。	・情景や心情を表す語句に注意して短歌を読み味わう。 ・短歌の表現の工夫などを捉えて、鑑賞したことをまとめる。	
	小さな発見を詩にしよう ◎言葉を選び、表現を工夫して、詩を仕上げる。 ◎比喩や反復などの表現技法を理解する。	B (1) -エ 伝 (1) イー (オ)	3		・表現の効果などについて確かめたり工夫したりする。	○小学校5・6年生の段階で、想像や経験したことを元に詩歌を作る学習に取り組んでいる。本学年では自らの表現を見つめ直し、より分かりやすく印象深い表現の仕方をする意識を高める。	・自然や体験の描き方を工夫して、短歌を作る。	
	音声の働きや仕組み ◎音声の働きや仕組みについて理解する。	伝 (1) イー (ア)	1		・話し言葉と書き言葉との違いに気づく。	○小学校では音節やアクセントについて学習している。本学年では上記の事柄について更に理解を深め、方言や敬語などの学習につなげていく。	・共通語と方言の役割について理解する。 ・敬語の種類や使い方について理解する。	
5	文法とは・言葉の単位 ◎言葉の単位について理解する。	伝 (1) イー (エ)	2		・文章の中での語句と語句の関係について理解する。	○小学校では句読点の打ち方や語句と語句の関係について学習している。本学年では文節や単語という事柄について理解を深め、後に学習する単語の類別などの学習を行う下地を作る。	・用言の活用形の種類や、活用の仕方について理解する。 ・助詞の種類や働きについて理解する ・助動詞の種類や意味について理解する。	
	遠い山脈 ◎場面の様子や登場人物の思いに注意して、作品を読み味わう。 ◎作品から読み取ったことをもとに想像を膨らませ、自分のものの見方を広げる。	C (1) -ウ C (1) -オ C (2) -ア	3		・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる。	○小学校では多くの文学的作品を読み、登場人物や場面に関する描写を読み取ったり、文章に表れているものの見方について考える学習を行っている。本学年では上記の事柄についてより深く読み取り、文学的文章における読解力を養っていく。	・文章全体と部分との関係や、筆者の書き方の工夫に注意して、内容を読み取る。 ・筆者のものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ。	

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
5	さんちき ◎場面の様子や登場人物の思いに注意して、作品を読み味わう。 ◎作品から読み取ったことをもとに想像を膨らませ、自分のものの見方を広げる。	C (1) -ウ C (1) -オ C (2) -ア	4		・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読む。	○小学校では多くの文学作品を読み、登場人物や場面に関する描写を読み取ったり、文章に表れているものの見方について考える学習を行っている。本学年では上記の事柄についてより深く読み取り、文学的文章における読解力を養っていく。	・登場人物の言葉や行動がどんな意味を持っているかに注意して、作品を読み味わう。 ・登場人物のものの見方や考え方について、自分の考えを持つ。	
	漢和辞典の使い方 ◎漢和辞典の使い方について理解する。	伝 (1) ウー (ア) 伝 (1) ウー (イ)	1		・学年別漢字配当表に示されている漢字を読むとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中に使う。	○小学校では音読みや訓読み、漢字の部首などについて学習している。本学年では漢和辞典を使うことで上記の事柄について確認するとともに、漢字に関する知識を深めていく。	・形の似た漢字に注意する。 ・漢字の意味を理解し、漢字を使いこなす。 ・同訓異字を使い分ける。 ・同音異義語を使い分ける。 ・常用漢字について理解する。	
	文の成分・連文節 ◎文節の働きや、文節どうしの関係について理解する。	伝 (1) イー (エ)	2		・文章の中での語句と語句の関係について理解する。	○小学校では句読点の打ち方や語句と語句の関係について学習している。本学年では文節という考え方やその働きについて理解を深め、後に学習する単語の類別などの学習を行う下地を作る。	・用言の活用形の種類や、活用の仕方について理解する。 ・助詞の種類や働きについて理解する ・助動詞の種類や意味について理解する。	
	聞き取って整理しよう ◎相手の話をしっかりと聞き、自分の考えとの共通点や相違点を整理する。	A (1) -エ A (2) -ア	3		・話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。	○小学校では学級での話し合いや討論活動などを通して、他者の話を効果的に聞く方法について学習している。本学年では、質問も交えながら話を聞くことでより深く相手の話を聞くことを学び、後の学習に活せるようにする。	・問題意識を持って相手の話を聞き、自分の考えと比較する。	
6	オオカミを見る目 ◎段落の役割や、段落どうしの関係に着目して文章の構成を捉え、内容を読み取る。 ◎筆者の文章の書き方について、自分の考えを持つ。	C (1) -イ C (1) -エ	4		・目的に応じ、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたりに読む。	○小学校では中心となる文や語句をとらえたり、事実や意見を読み分けたりという学習を行っている。本学年では文章を中心となる部分と付加的な部分とに分けることを学び、文章を構造的に見ることの基礎を養う。	・文章全体と部分との関係や、筆者の書き方の工夫に注意して、内容を読み取る。 ・筆者のものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ。	
	つなぐ言葉・指し示す言葉 ◎つなぐ言葉や指し示す言葉の働きについて理解する。	伝 (1) イー (エ)	1		・文章の中での語句と語句の関係について理解する。	○小学校では句読点の打ち方や語句と語句の関係について学習している。本学年では指示語、接続語について理解を深め、後に学習する単語の類別などの学習を行う下地を作る。	・用言の活用形の種類や、活用の仕方について理解する。 ・助詞の種類や働きについて理解する ・助動詞の種類や意味について理解する。	

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
6	活字と書き文字 画数・筆順 ◎活字と書き文字の違い、画数、筆順について理解する。	伝(1) ウー(ア) 伝(1) ウー(イ)	1		・学年別漢字配当表に示されている漢字を読むとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中に使う。	○小学校では書写の時間などを通して、字形の整え方や漢字と仮名の調和について学習している。本学年では活字と書き文字のちがいについて考えるとともに、字形を整えるために筆順が重要であることなどを学ぶことで、文字に対する関心を深める。	・形の似た漢字に注意する。 ・漢字の意味を理解し、漢字を使いこなす。 ・同訓異字を使い分ける。 ・同音異義語を使い分ける。 ・常用漢字について理解する。	
7	図表を使って伝えよう ◎ふだんの生活を振り返って、書くための材料を集め、伝える内容を考える。 ◎材料を分類するなどして整理し、図表にまとめたり、段落の役割を考えて文章を構成したりする。	B(1) -ア B(1) -イ B(2) -イ	9 (+1)	国語科の重点「習得した言語事項を用いて自分の思いを表現する授業の創造」の鑑み、「オオカミを見る目」で学習した「段落の役割」について考えながら文章を書くというこの教材は丁寧に扱いたい。	・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書く。	○小学校では集めた資料を元に説明の文章を書く、新聞を作成するといった学習を行っている。本学年では情報を表やグラフにまとめることでより効果的に情報を伝えることができるということを学び、今後の言語活動に役立てる。	・自分の立場を明確にして、分かりやすい構成で意見文を書く。 ・意見が効果的に伝わるように、根拠を具体的に記述したり、他の立場への反論を盛り込んだりする。	■図や表と文章を組み合わせた形式でのレポート作成と、その発表会。
	碑 本の世界を広げよう 本の世界を楽しもう ◎本の中から目的に合った文や語句を見つける。	C(1) -カ C(2) -ウ	3		・目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読む。	○小学校では本を読んで推薦の文章を書くという課題に取り組んでいる。本単元では文章の中から意図をもって文や言葉を見つけるという課題に取り組み、本の中から情報を探し出すすべを身につける。	・さまざまな情報源からの情報を比べて、まとめる。 ・複数の本を読んで、比べながら考えをまとめ、紹介をする。	
8	伊曾保物語 ◎古典にはさまざまな作品があることを知る。 ◎古典に対する興味や関心を持つ。 ◎歴史的仮名遣いに注意して、古文の読み方に慣れる。	伝(1) アー(ア) 伝(1) アー(イ)	3		・古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知る。	○小学校では親しみやすい古文や文語調の文章に触れている。本学年では現代仮名遣いなどについて学習する中で古文に慣れ、次年度以降の古典の学習につなげる。	・古文特有のリズムを味わいながら音読を楽しむ。 ・自然や事物に対する筆者のものの見方や感じ方を捉える。	
9	竹取物語 ◎現代語とは異なる仮名遣いや言葉に注意して、古文を読み味わう。 ◎物語のおもしろさを知り、作品に描かれた世界と現代とのつながりを考える。	伝(1) アー(ア)	4		・親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読する、	○小学校では親しみやすい古文や文語調の文章に触れている。本学年では現代仮名遣いなどについて学習する中で古文に慣れ、次年度以降の古典の学習につなげる。	・現代語訳を手掛かりにして内容を読み取る。 ・随筆に表れた筆者のものの見方や考え方を捉える。	

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
9	矛盾 ◎漢文特有のリズムを味わい、訓読に必要な決まりを知る。 ◎現代に生きる故事成語について理解を深める。	伝(1) アー(ア)	3		・古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知る。	○小学校では親しみやすい古文や文語調の文章に触れている。本学年では、古典の文章を通して昔の人のものの見方や考え方を学ぶことで、古典の世界により深く親しみ、次年度以降の学習につなげる。	・表現の特徴を捉え、繰り返し朗読して漢詩の世界を楽しむ。 ・それぞれの漢詩に描かれている情景や作者の思いを捉える。	
	音読み・訓読み ◎漢字の音読みと訓読みについて理解する。	伝(1) ウー(ア) 伝(1) ウー(イ)	1		・学年別漢字配当表に示されている漢字を読むとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中に使う。	○小学校ですでに漢字の音読みと訓読みについては学習している。本学年では改めて音読み訓読みについて振り返りながら様々な漢字に触れ、日常に使用できる漢字の数を増やす。	・形の似た漢字に注意する。 ・漢字の意味を理解し、漢字を使いこなす。 ・同訓異字を使い分ける。 ・同音異義語を使い分ける。 ・常用漢字について理解する。	
	単語の分類 ◎単語の分類の仕方について理解する。	伝(1) イー(エ)	2		・文章の中での語句と語句の関係について理解する。	○小学校では文章中の語句と語句の関係や、語句の構成や変化についての学習を行っている。本学年では単語の類別について学ぶとともにそれぞれの特徴について理解し、単語の活用など後の学習につなげていく。	・用言の活用形の種類や、活用の仕方について理解する。 ・助詞の種類や働きについて理解する ・助動詞の種類や意味について理解する。	
	分かりやすく紹介しよう ◎全体と部分、事実と考えとの関係に注意して、分かりやすく話を組み立てる。 ◎声の大きさや話す速さ、間の取り方などに気をつけて、聞き取りやすい話し方をする。	A(1) -イ A(1) -ウ A(2) -ア	6		・目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話す。	○小学校では、聞き手の要求を考慮しながらスピーチをするという課題に取り組んでいる。本学年では、話の内容を整理し、より分かりやすく話を組み立てるすべを学習する。	・聞き手の立場や考えを想定し、説得力のある話を組み立てる。 ・資料や機器を活用して、分かりやすく印象的に話す。	
10	書写 ◎漢字と仮名の調和を意識し楷書を書く。漢字の行書の基礎的な書き方を理解し行書を書く。		23		・毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書く。	○小学校では書写の時間に大きさや配列などに注意しながら漢字の楷書を美しく書く学習に取り組んでいる。本学年では主に漢字の行書の書き方について学び、次年度、行書で仮名文字を書くことの基礎を築く。	・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書く。	
11	月夜の浜辺 ◎詩の中の言葉から情景や心情を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。	C(1) -ア C(2) -ア	1		・自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をする。	○小学校では歌の朗読には取り組んでいる。本学年では詩歌の中の語句の意味について理解し、それを生かして朗読するよう指導を行う。	・詩に描かれた情景や心情を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。	

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
1 1	脳の働きを目で見よう ◎文脈の中における語句の意味を的確に捉える。 ◎事実と筆者の考えとを読み分けて、要旨を捉える。 ◎文章の内容を踏まえて、脳の働きについて考える。	C (1) -ア C (1) -イ C (1) -オ C (2) -イ	4		・目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読む。	○小学校では中心となる文や語句をとらえたり、事実や意見を読み分けていたりという学習を行っている。本学年では文章を中心となる部分と付加的な部分とに分けることを学び、文章を構造的に見ることの基礎を養う。	・文章全体と部分との関係や、筆者の書き方の工夫に注意して、内容を読み取る。 ・筆者のものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ。	
	漢字の部首 ◎漢字の部首やその意味について理解する。	伝 (1) ウー (ア) 伝 (1) ウー (イ)	1		・学年別漢字配当表に示されている漢字を読むとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中に使う。	○小学校ですでに漢字の部首については学習を行っている。本学年では漢字の部首についてより深く学ぶとともに多くの漢字に触れ、日常に使用できる漢字の数を増やす。	・形の似た漢字に注意する。 ・漢字の意味を理解し、漢字を使いこなす。 ・同訓異字を使い分ける。 ・同音異義語を使い分ける。 ・常用漢字について理解する。	
	名詞 ◎名詞の種類について理解する。	伝 (1) イー (エ)	2		・文章の中での語句と語句の関係について理解する。	○小学校では文章中の語句と語句の関係や、語句の構成や変化についての学習を行っている。本学年では単語のうち名詞の種類および特徴について理解し、単語の活用など後の学習につなげていく。	・用言の活用形の種類や、活用の仕方について理解する。 ・助詞の種類や働きについて理解する ・助動詞の種類や意味について理解する。	
	根拠を明確にして書こう ◎説得力のある根拠を考え、根拠を明確に示して自分の意見を書く。 ◎書いた文章を互いに読み合い、根拠の明確さや説得力などを確かめ合う。	B (1) -ウ B (1) -オ	8 (+1)	国語科の重点「習得した言語事項を用いて自分の思いを表現する授業の創造」に鑑み、「脳の働きを目で見よう」で学習した「事実と意見の書き分け」について考えながら意見文を書くというこの教材は丁寧に扱いたい。	・事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする。	○小学校では、課題についての調査をしたうえで意見文を書くという課題に取り組んでいる。本学年では、意見文の説得力を増すための根拠を明確にして意見文を書くという課題に取り組み、より文章力を磨くことを目標とする。	・自分の立場を明確にして、分かりやすい構成で意見文を書く。 ・意見が効果的に伝わるように、根拠を具体的に記述したり、他の立場への反論を盛り込んだりする。	■事実と意見の書き分けや根拠の明確さに留意しながら意見文を書き、互いに読み合う。
1 2	少年の日の思い出 ◎場面の展開を捉え、人物や情景を描いた表現に着目して、作品を読み深める。 ◎作品の構成の工夫について、自分の考えを持つ。	C (1) -ウ C (1) -エ	5		・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる。	○小学校では多くの文学的作品を読み、登場人物や場面に関する描写を読み取ったり、文章に表れているものの見方について考える学習を行っている。本学年では上記の事柄についてより深く読み取り、文学的文章における読解力を養っていく。	・人物や情景の効果的な描写に着目して、作品を読み深める。 ・場面の展開や表現の仕方について、自分の考えをまとめる。	
	語の意味と文脈 ◎語の多面的な意味と、文脈の働きについて理解する。	伝 (1) イー (イ) 伝 (1) イー (ウ)	1		・語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつ。	○小学校では国語の学習を通して、語感を磨いている。本学年では、語の辞書的な意味と文脈上の意味について考え、語感を磨く。	・曖昧な文や分かりづらい文になる原因を理解し、分かりやすい文の書き方を知る。	

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
1 2	漢字の成り立ち ◎漢字の成り立ちについて理解する。	伝(1) ウー(ア) 伝(1) ウー(イ)	1		・学年別漢字配当表に示されている漢字を読むとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中に使う。	○小学校の段階で漢字の由来に関する学習を行っている。本学年では漢字の成り立ちについて学びながら多くの漢字に触れ、日常に使用できる漢字の数を増やす	・形の似た漢字に注意する。 ・漢字の意味を理解し、漢字を使いこなす。 ・同訓異字を使い分ける。 ・同音異義語を使い分ける。 ・常用漢字について理解する。	
	案内や報告の文章を書こう ◎必要な情報を選び出し、分かりやすい構成でまとめる。	B(1) -イ B(2) -ウ	3		・自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考える。	○小学校では引用の仕方や、構成に気を配った文章の書き方などについて学習している。本学年では、情報をより分かりやすく伝えるための紹介の仕方や構成について考えながら文章を書くことを学ぶ。	・自分の立場を明確にして、分かりやすい構成で意見文を書く。 ・意見が効果的に伝わるように、根拠を具体的に記述したり、他の立場への反論を盛り込みたいりする。	
	コンビニ弁当十六万キロの旅 ◎情報の調べ方・集め方を身につけ、必要な情報を読み取る。	C(1) -カ C(2) -イ	3		・目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。	○小学校では本を読んで推薦の文章を書くという課題に取り組んでいる。本単元では本を読むことで様々な情報を得られるということを確認し、今後の読書活動の増進を図る。	・さまざまな情報源からの情報を比べて、まとめる。 ・複数の本を読んで、比べながら考えをまとめ、紹介をする。	
1	ニュースの見方を考えよう ◎ニュースの見方について自分の考えを持つ。 ◎目的に応じて情報を選択して用いる。	C(1) -オ C(1) -カ	4		・本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。	○小学校では本を読んで推薦の文章を書くという課題に取り組んでいる。本単元では、本を読んで感じたことなどについて話し合い、考えを深めあうことを目的とする。	・情報を得ることについての筆者の考え方を捉え、自分の考えを持つ。 ・書籍やインターネットを使って情報を集め、それらの情報の特徴について考える。	
	新しい常用漢字 ◎常用漢字について理解する。	伝(1) ウー(ア) 伝(1) ウー(イ)	1		・学年別漢字配当表に示されている漢字を読むとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中に使う。	○小学校では学年ごとに漢字の学習を重ね、徐々に使用できる漢字を増やしてきた。本学年では新しく常用漢字に加わった漢字を学び、日常に使用できる漢字の数を増やす	・形の似た漢字に注意する。 ・漢字の意味を理解し、漢字を使いこなす。 ・同訓異字を使い分ける。 ・同音異義語を使い分ける。 ・常用漢字について理解する。	
	連体詞・副詞・接続詞 ◎連体詞・副詞・接続詞の種類や働きについて理解する。	伝(1) イー(エ)	2		・文章の中での語句と語句との関係を理解する。	○小学校では文章中の語句と語句の関係や、語句の構成や変化についての学習を行っている。本学年では単語のうち連体詞、副詞、接続詞の種類および特徴について理解し、後の学習につなげていく。	・用言の活用形の種類や、活用の仕方について理解する。 ・助詞の種類や働きについて理解する ・助動詞の種類や意味について理解する。	
2	話し合いで理解を深めよう ◎お互いの体験や考えを出し合って整理する。 ◎相手の発言をしっかりと聞き、話の方向を捉えて自分の考えを話す。	A(1) -ア A(1) -オ A(2) -イ	6		・互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う。	○小学校の段階で、座談会やパネルディスカッションなど、互いの考えを出し合い討論するという活動を行っている。本学年では、相手の考えや話の流れを意識しながら話し合いを行うことで、よりよい話し合いのあり方について学ぶ。	・さまざまな情報手段を使って討論のテーマを決め、自分たちの提案をまとめる。 ・司会者やパネリストの役割を押さえ、目的に沿って話し合う。	

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
2	鑑賞して良さを表現しよう ◎作品の良さを伝えるという目的に沿って、鑑賞文を書くための材料を整理し、文章を構成する。 ◎鑑賞文やキャッチコピーが的確で印象深いものになるよう、表現を磨く。	B (1) -イ B (1) -エ B (2) -ア	8		・自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考える。	○小学校では本を読んで推薦の文章を書くという課題に取り組んでいる。本単元では本や芸術作品などの良さを分かりやすく効果的に伝えるための手立てについて学ぶ。	・風景や心情などをいきいきと表すように、描写を工夫して物語を作る。 ・書いた物語を読み合っ、材料の活用の仕方などについて意見を交換し、自分の考えを広げる。	
3	木 ◎詩の中で使われている言葉の意味を的確に捉える。 ◎詩に表れているものの見方を捉え、自分の考え方を広げる。	C (1) -ア C (1) -オ	2		・自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をする。	○小学校では歌の朗読には取り組んでいる。本学年では詩歌の中の語句の意味について理解し、それを生かして朗読するよう指導を行う。	・詩に描かれた情景や心情を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。 ・情景や心情を表す語句に注意して短歌を読み味わう。 ・短歌の表現の工夫などを捉えて、鑑賞したことをまとめる。	
	トロッコ ◎文学作品を読み、情景描写などの表現の効果について考える。	C (1) -エ	4		・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる。	○小学校では多くの文学的作品を読み、登場人物や場面に関する描写を読み取ったり、文章に表れているものの見方について考える学習を行っている。本学年では上記の事柄についてより深く読み取り、文学的文章における読解力を養っていく。	・文学作品を読み、登場人物の考え方や人柄などについて考える。	
	合計		140					